

下はあいさつする青木社長（左）と松田ワタナベガラス社長

商 本格発売へ発売式

高透明・遮熱フィルム

総商（川崎市高津区、青木克眞社長）はこのほど、昨年からのテスト販売している「ECOフィルムX-3」の本格発売に先駆けて「ECOフィルムX-3の会」を発足。既に販売実績のある業者から同フィルムを扱う業者などを招いて

2月6日、川崎市高津区のホテルKSPで発売式を開催した。開発意図や今後の販売ポイントなどについて意見を交換し、同商品の特長を認識する勉強会となった。

開発者で元旭硝子研究所の明吉一幸工芸博士が製品の特長を解説。既に

販売実績を持っている業者を代表してあいさつしたワタナベガラス（札幌市）の松田祥和部長が同商品の用途と施工実績を

披露。「省エネ・環境時代にマッチした新しいエコフィルムの拡販に力を入れていきたい」と語った。

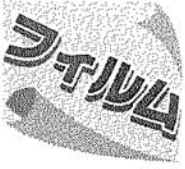
コンビニエンスストア、専門学校、百貨店、専門店、美術館などへの施工実績も紹介した。

同商品は、プラズマテクノロジーの表面にコーティングされている熱・電磁波制御製膜を窓用フィルムにしたもの。スパッタ成膜よってフィルム表面に多層膜をコートした反射型の熱線遮へい窓用フィルム。薄膜の金属層が特定波長の光（赤外線）を反射して、夏季の室温上昇を緩和する。反射型なので放射熱による温度上昇を最小限に抑える。可視光の透過性が良く、照明費に負担を掛けない。冬季は室内からの熱放射を反射して室外に逃がさない。相反する特性をバランス良く兼ね備え、快適な生活環境を演出する。

「省エネ・環境時代にマッチした新しいエコフィルムの拡販に力を入れていきたい」と語った。

コンビニエンスストア、専門学校、百貨店、専門店、美術館などへの施工実績も紹介した。

同商品は、プラズマテクノロジーの表面にコーティングされている熱・電磁波制御製膜を窓用フィルムにしたもの。スパッタ成膜よってフィルム表面に多層膜をコートした反射型の熱線遮へい窓用フィルム。薄膜の金属層が特定波長の光（赤外線）を反射して、夏季の室温上昇を緩和する。反射型なので放射熱による温度上昇を最小限に抑える。可視光の透過性が良く、照明費に負担を掛けない。冬季は室内からの熱放射を反射して室外に逃がさない。相反する特性をバランス良く兼ね備え、快適な生活環境を演出する。



可視光線透過率は74

赤外線を87%カットし、日射の暑さを大幅に軽減する。冷暖房の効率も大幅に上がる。染み、そばかす、家具などの退色の原因となる紫外線を99%カット。熱反射タイプのフィルムで熱吸収率が低いので、網入りガラスの場合でも割れにくいのが特長。地震・災害時にガラスの飛散を防止する。

有害な電磁波の侵入や情報の流出を制御する（携帯電話の電波は通す）。

震災展に出展

実演などで機能をPR

日本ガラスフィルム工業支部長の手塚重吉氏は、地震防止フィルム、防犯フィルムなどを、2月4日、5日の日射遮熱フィルム展に出品。支部の役員が文代でフィルムの性能と特徴をPRした。

地震防止フィルムを



鉄球をぶつける実験などでフィルムの効果をPRした